

# 小学校における学習基本語彙の調査・研究

小学校6年間を支えることばの基礎・基本

今 宮 信 吾 (関西大学初等部)

## 1. はじめに

小学校入門期（1年生）における語彙指導の在り方については、使用教科書の差異によって、学校ごと地域ごとで違っている。ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字などの文字指導は、どの学校でも決まっている。とりわけ、漢字については、各学年ごとの配当表があり、落とさずに指導されている。

そこで、学校の入門期である1年生では、どんなことばにふれ、それをいつ、どの場面でどのように指導すればいいのかを明らかにしようとした。そして、それらが小学校の学習基本語彙を考える際にどのような枠組みで考えればいいのかを明らかにする。

## 2. 語彙表の作成と指導事例の交流

2015年から使用される小学校国語科の教科書の1年生に掲載されていることばを、語彙一覧表として作成し、その活用方法について、研究会で話し合った。

### (1) 語彙一覧表

検定教科書（光村図書、東京書籍、三省堂、学校図書、教育出版）の五社の小学1年生の教科書に掲載されている語句を五十音順、掲載ページ、に分けて一覧表にした。語句の品詞では、名詞が多く見られた。形容詞、副詞もあるが、動詞の違いが1年生の子どもたちにどの程度わかるのかということが研究会でも話題になった。そこで、この一覧表の活用について考えることにした。

### (2) 一覧表の活用

名詞については、写真や絵を添えて、カードにするなどして指導することができるが、動詞については、微妙な動きが多いので、指導の工夫が必要であることもわかった。三省堂の「こども絵ことばじてん」1) を使用して動きを理解させることができるのではないかという話題になった。そこで、自分たちでもえことばを書いてみようということにして、1年生に絵ことば辞典づくりに取り組ませた。その他、三省堂の「こどもこくごじてん」2) を活用した指導も可能なのではないかということになった。

### (3) 入門期からの指導の系統

一覧表から指導の系統を考えるために、表1の分類を参考にした。3) 言語を「文学言語」「日常言語」「論理言語」に分けてとらえ直してみると、1年生では、日常言語が多く見られる。そこに論理言語や詩や文学に見られる文学言語が教科書の単元、テキストに応じて挿入されている。日常言語の指導については、国語科以外の授業でも指導しやすいが、他の二つについては、意図的に国語科で指導し、獲得させる必要があるだろう。

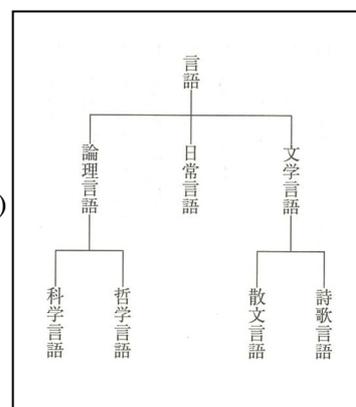


表 1

1年生にとってどんな語彙が日常言語として使用し、その意味がわかっているのかを1年生担任に尋ねてみた。すると、日常言語についても家庭での言語生活による差が見られるために、1年生では、継続的に指動する必要があることがわかった。

### 3. 小学校における学習基本語彙指導計画の構想

#### (1) 学習基本語彙の先行研究

井上一郎氏の「国語科学習基本語彙の構想」を参考にした。ここでは、「生活概念」から「科学的概念」へ、言語を媒介とした論理・抽象的な科学概念の形成へという流れで、学習基本語彙の指導計画を構想している。4)

これらのことを参考に学習基本語彙指導の計画を立ててみることにした。そこで小学校の教科書の指導事項を語彙指導に重点に置いたものを取り上げ表にし、年間指導計画や国語科のカリキュラム作成の参考にできるようにした。ここでは、光村図書の教科書を取り上げ、その指導事項を学年ごとの表にしたものを掲載する。

#### (2) 各学年の語彙指導（光村図書）

配当単元を調べてみると、ある程度の系統が見られた。文字の獲得から確実な習得と活用をめざして計画的に教科書は作成されている。基本語彙として、文字とことばに分けて一覧にした。

学年	文字	ことば
1	平仮名 濁音 促音 長音 拗音 漢数字 片仮名 漢字	助詞（はをへ） ことばあそび 日付曜日 冬のことば
2	漢字 片仮名	うれしいことば ことばあそび 主語述語 ようすをあらわすことば なかまのことば
3	漢字の音訓 記号符号 漢字の偏と旁 ローマ字	国語辞典 秋の楽しみ 修飾語 同意語 反対語 冬の楽しみ
4	漢字	漢字字典 言葉の意味 秋探し 慣用句 接続詞 熟語
5	漢字 漢字の成り立ち 漢字の読み方使い方	敬語 春から夏へ 和語 漢語 外来語 複合語
6	漢字 漢字の形 音 意味	春はあったか 敬語 熟語

この一覧からわかることは、文字指導は、1年生以外は、ほぼ漢字指導に集中していること、ことばの指導は、文法的な指導以外に、季節を表すことばの指導が組み込まれていることである。このことについては、前掲した表1を作成した中渕正堯氏が「歳時記的方法・風土記的方法」として提示している。5) 各地域、学校の実態に合わせた語彙指導の必要性を示唆している。

#### (3) 語彙指導事例

文字の獲得とともにそれをことばとして習得・活用するために、辞書活用が有効であるにとらえ、実践してみた。

<1年生> 「わたしのこくごじてん」を作ろう

① 自分の知っていることばに置き換えてみる。

「〇〇ということばがあるので、きっとこうだと思います。」

② ことばのひびきから近いものを想像する。

「きっと〇〇のなかまのことばだと思います。」

### ③自分辞典を作る

「ことば」「そのことばの意味」「例文」「挿絵」という順で「こどもこくごじてん」に載っていないことばの辞書を作成する。

<3年生>「協力して漢字を見つけよう」

2人組で漢字カードを用いて、部首と旁をつなぎ合わせて、知らない漢字を見つけ、辞書で調べさせた。また、「木偏のつく漢字」「画数が10画の漢字」「読み方が同じ漢字」というように、漢字の習得を目的として辞書活用をさせた。文字の獲得とことばの指導を連携させるために、国語辞典と漢字字典を常に携帯することにした。語彙の獲得のための辞書活用については今後も研究を続けたい。

## 4. おわりに

横糸として国語科の学習基本語彙については、ある程度方向性が見えた。次に、縦糸である小学校の各教科での言語活動の充実を考えると、「教科のことば」を充実させるための学習が必要である。国語科ではその基盤となる言語活動を行うが、各教科独自のことばの指導はなされるべきである。それによって、国語科における学習基本語彙の獲得を学校全体に広げていく必要性を感じた。このことは、学校全体のカリキュラム作成としても重要なことになってくる。

また、1年生担任が教科書に出てくる語彙を知っておくことは、テストやプリント作成にも活かすことができる。今後、本研究を次へとつないでいきたい。

### 参考・引用文献

- 1) 「こども絵ことばじてん」 三省堂
- 2) 「こどもこくごじてん」 三省堂
- 3) 「ことば学びの放射線」 中渕正堯 P198 2007 三省堂
- 4) 「国語科教育」 井上一郎 P34-41, 1983 全国大学国語教育学会
- 5) 「ことば学びの放射線」 中渕正堯 P16-18 2007 三省堂

